発行
農林水産省
東北農政局
秋田県拠点

令和8年 春号
Vol.44

秋田ニュース

Stationed at Akita Prefecture Area,
Tohoku Regional Agricultural Administration Office

秋田の匠が育てた 農畜産物を海外へ

Flagship Export Region JAPAN

「フラッグシップ輸出産地」として全国108産地が認定

農林水産省では、海外の規制やニーズに対応して継続的に輸出に取り組み、輸出取組の手本となる産地を「フラッグシップ輸出産地」として認定しています。2024年４月からの募集開始以降、2025年12月現在で全国108の産地が認定され、品目数はりんごや米、豚肉、ぶり、盆栽、製材など31品目となっています。

産地の選定基準

①輸出先国・地域の規制やニーズに対応した輸出を行っていること
②一定の量又は金額の輸出実績があること
③サプライチェーンを構築し、継続的・安定的に輸出を行っていること

県内では２産地２品目が認定

県内では2024年に「秋田牛輸出促進コンソーシアム」が初めて認定され、2025年12月に２つ目の産地として「秋田県農畜産物輸出促進協議会グローバルリーチAKITA」が認定されました。

2026年２月に行われた、「グローバルリーチAKITA」の認定証授与式には、小松忠彦副会長をはじめ役員の皆さまが出席されました。授与式後には、東北農政局担当者と意見交換が行われ、今後の輸出展開などについて活発な議論が交わされました。

認定産地	輸出品目	主な輸出先国
秋田牛輸出促進コンソーシアム	牛肉	台湾、タイ
秋田県農畜産物輸出促進協議会 グローバルリーチAKITA	米	香港、台湾、シンガポール等

オール秋田で輸出に取組む

■グローバルリーチAKITA
小松忠彦副会長

これからは、輸出を主体に需要の拡大を図り、生産を拡大していくことが、増々重要になってきます。

インバウンド需要にも応え秋田の農畜産物の良さを知っていただき、県が掲げている「2029年、農畜産物の輸出額が40億」、これを早期に達成できるようにオール秋田で取り組んでいきたいと考えています。

第一次産業を元気に

フラッグシップ輸出産地に認定されたことにより、補助事業の優先採択やGFPによる海外への情報発信など、さまざまな支援を受けることができるようになります。

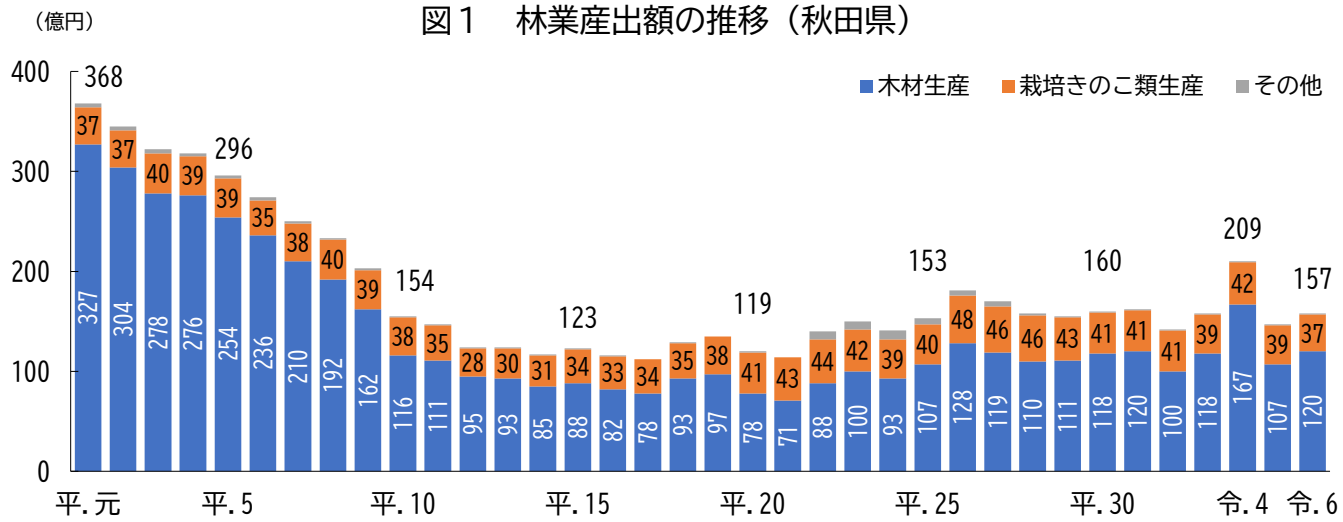
こうした支援も活用しながら、秋田の匠が自信をもって育てた農畜産物を海外の消費者へ届けることで、秋田の第一次産業のさらなる活性化が期待されます。

■認定証を手にするグローバルリーチAKITAのみなさん

令和６年秋田県の林業産出額
～ 昨年に引き続き全国９位　～

令和６年の全国の林業産出額は、前年に比べ159.8億円（2.9%）増加し、5,713.1億円でした。
そのうち、秋田県は157.0億円で、前年に比べ 10.6億円（7.2%）増加しています。
これは、秋田県において木材生産全体の約９割を占める「すぎ」の生産量が増加したことによります。
栽培きのこ類生産では、「生しいたけ」の産出額は全国４位と健闘したものの、全体の生産量が減少したことにより産出額は減少しました。

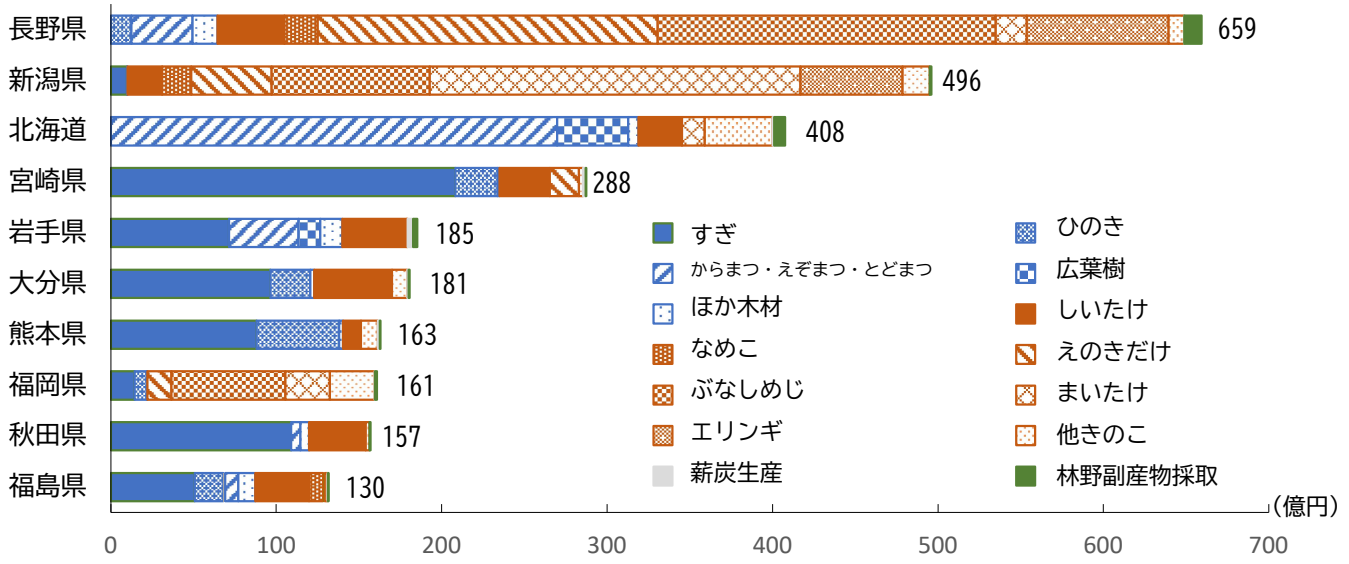
図１　林業産出額の推移（秋田県）



メモ：2021年（令和３年）を中心に、米国や欧州諸国における住宅需要の急増、海上輸送の混乱等を背景として、日本において木材の供給不足や価格の大幅な上昇が生じた現象は、「ウッドショック」と呼ばれています。

令和６年における林業産出額の上位10都道府県は、長野県が659億円、新潟県が496億円、北海道が408億円と続き、秋田県は157億円で９位となっています。この順位は前年と変わらず、16年連続でトップテン入りしています（平成以降最上位は７位）。

図２　林業産出額の上位10都道府県（令和６年）



注：都道府県別産出額には、全国計に計上するパルプ工場へ直接入荷されるパルプ用素材、輸出丸太及び燃料用チップ素材の産出額、薪炭生産におけるまきの産出額、林野副産物採取における木ろうやうるしの産出額は計上されません。

お問合せ先
東北農政局秋田県拠点地方参事官室
〒010-0951　秋田市山王七丁目１－５　TEL:018-862-5611（代表）
Webページ:https://www.maff.go.jp/tohoku/tiiki/akita/index.html